

□タイトル

「時代と共に 小児がん経験者の自立」

□氏 名

野 田 直 樹 (のだ・なおき)



□プロフィール

1983年7月生まれ。27歳。福岡県久留米市出身。現在は佐賀県在住。

1987年小児がんの一種である悪性リンパ腫を発症。再発を含め約8年間の闘病生活を経験する（外来治療も含む）。

高校1年の時に、福岡県久留米市に拠点を置く小児がん経験者の会に入会。今に至る。

□要 旨

不治の病とされてきた小児がんは、現在医学の進歩によって、「完治が望める」時代へと歩みを進めている。そして小児がんを克服し、学校生活、社会生活を送っている小児がん経験者は増え続けている。

また、小児がんを完治させる為に使用した抗がん剤治療、放射線治療などが原因で、発症する可能性があると言われていた晩期合併症の研究も始まっている。

しかし、様々な原因が重なり、学校生活、社会的自立が出来ない小児がん経験者も存在する事が浮き彫りになってきた。

「完治出来ない」時代から「完治が望める」時代へ、時代が動き始めた今だからこそ、小児がん経験者の「自立」を考え、具体的な支援体制の確率を目指すなければならない。